

拠点形成研究交流報告： アルゼンチン拠点 CERELA-CONICETを訪問し研究交流を実施、 アルゼンチン免疫学会において共同研究成果について発表

北澤春樹CFAI副センター長と大学院生3名(犬童優樹、高木理宏、友常加恵)が、アルゼンチン国立乳酸菌研究所(CERELA-CONICET、アルゼンチン研究拠点)を訪問(2019年9月21～10月14日)し、アルゼンチン拠点メンバーと共同研究の進捗について情報交換をすると共に、研究交流を行いました。訪問期間中、一週間の大学院特別コース(Advances in Mucosal Immunity and Microbiota)に、北澤教授は講師として、また大学院生3名は受講生として参画しました(大学院3名もそれぞれ共同研究の進捗について口頭発表しました)。さらに、アルゼンチン免疫学会(LXVII ANNUAL SCIENTIFIC MEETING OF THE ARGENTINE SOCIETY OF IMMUNOLOGY)に参加する機会が得られ、北澤教授は、アルゼンチン拠点メンバーのJulio Villena博士と共に特別講演を務め共同研究成果についてそれぞれ披露しました。また、大学院生3名は共同研究成果に関するポスター発表を行い、研究者との活発な交流も行うことができました。北澤教授による講演や大学院生による研究発表では、参加者の皆さんに興味関心を持って頂き、共同研究のさらなる発展が大いに期待されました。

今回の訪問では、既に締結している学術交流協定について、追加項目の双方同意が得られ、今後益々、教員および学生の学術交流が活発に行われるものと思います。

アルゼンチン拠点メンバー



共同実験風景



学術交流協定書



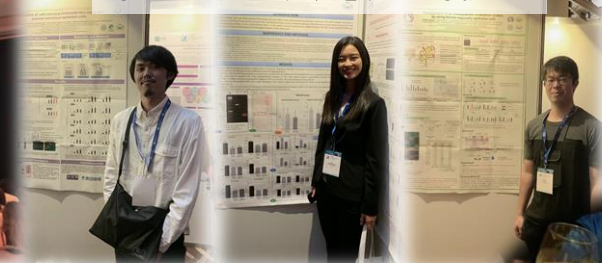
大学院特別コース



学会で特別講演をする
北澤教授



学会でポスター発表をする大学院生



大学院特別コース集合写真



キルミスのインカ帝国遺跡にて



インディペンデントハウスにて

